

気仙沼NPO/NGO連絡会

震災～未来へ

気仙沼NPO/NGO連絡会事務局

特定非営利活動法人気仙沼まちづくりセンター

気仙沼まちづくり支援センター

塚本 卓

気仙沼NPO/NGO連絡会について

■震災直後に始まった関係機関（行政・社協・消防・警察・自衛隊・NPO等）の活動を調整していた場が母体。

2011年6月17日から「気仙沼NPO/NGO連絡会」と命名し、毎週金曜日にNPO・社協・行政等が参加し、現在も変わらず会合を継続している。

震災前に合併した唐桑地区・本吉地区においても個別に連絡会が開催されている。

活動内容の推移

■ 震災直後

→物資配布や炊き出し等活動調整の場。

■ 震災後半年～二年目

→各団体間の活動調整・協働と地域課題の把握。

■ 三年目

→混迷期、開催の意義に対する疑問。

■ ～現在

→活動情報共有の場。MLで各種情報伝達。

主な参加団体

■ 外部NPO・市内NPO・（応急仮設住宅）サポートセンター・気仙沼市民活動支援センター・気仙沼市地域支援員・気仙沼市地域づくり推進課・気仙沼市社会福祉協議会ボランティアセンター・みやぎ生協VC・みやぎ心のケアセンター・宮城県地域復興支援課 復興支援第二班・みやぎ連携復興センター・JCN・JPF・気仙沼大学ネットワーク・企業等。

運営形態

- 規約なし、予算なしの任意会議体。
配布物等は各団体が負担。
- 事務局運営は、2012年度まで外部支援団体の職員が担っていたが、団体の動
終了撤退に伴い2013年度より地元NPO
団体が引き継いでいる。
- 平成27年度の開催実績
参加団体64団体、開催回数47回。

連絡会開催の意義

- 「顔を合わせる事」
- 「各団体の活動を把握している事」



- ☆ 市全域での課題が速やかに把握できる。
- ☆ 団体の現状が見え易く、連携がし易い。
- ☆ 多様な情報を知る機会となる。
- ☆ 外部からの窓口的存在。

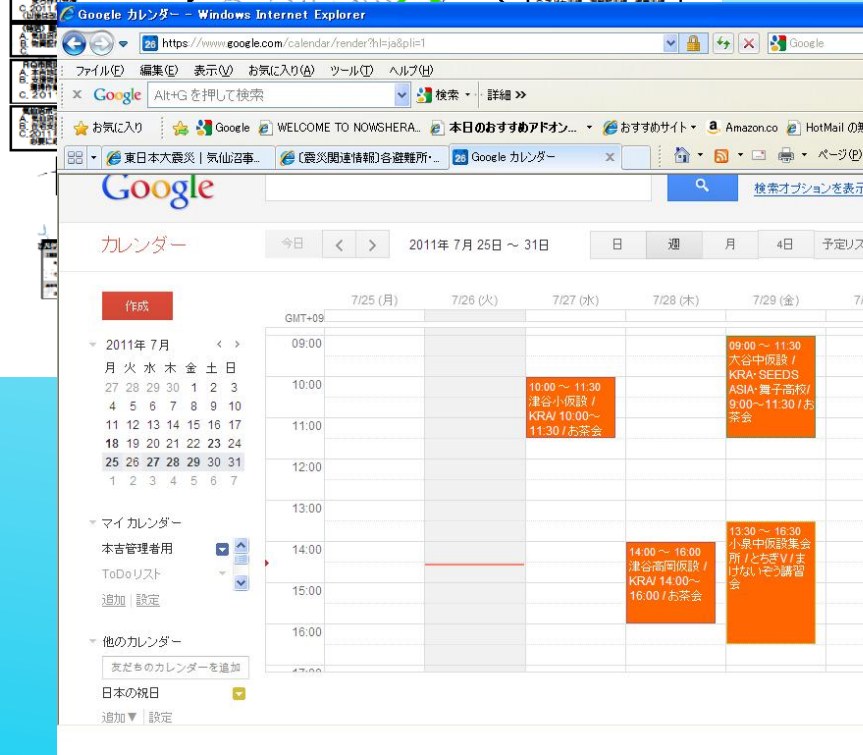
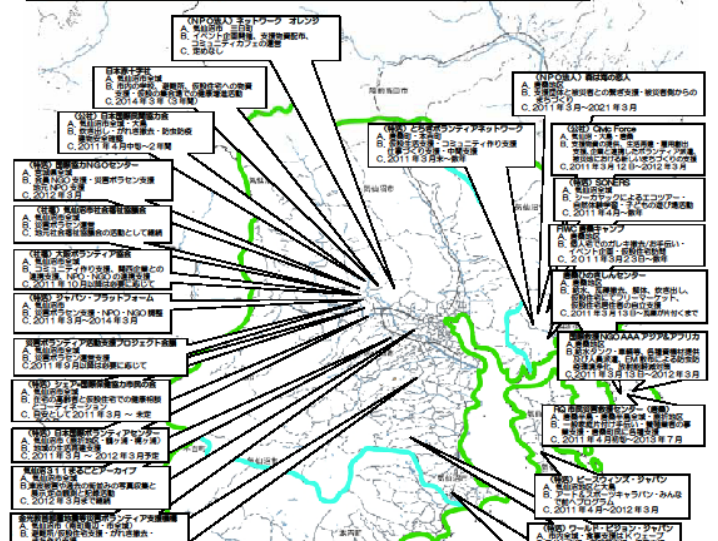
連絡会が行ったこと

- 【2011年】 ■ 役割分担を明確化し住民負担を軽減。
■ Googleカレンダーによる活動情報共有。
- 【2013年】 ■ 災害公営住宅申し込みについての啓発チラシの配布。
- 【2014年】 ■ 改めて各団体の活動を紹介。
- 【2015年】 ■ 課題解決に向けたワーキング
→ コミュニティワーキング等の実施。

その他、被災地への募金活動・市の各種会議体へ委員参加を行っている。

気仙沼市で復興支援活動中の NGO・NPO・ボランティア団体

団体名
A. 主な活動地
B. 主な活動内容
C. 活動期間



気仙沼市長 菅原茂様

気仙沼市震災復興市民委員のみなさま

2011年6月21日

今回の震災により亡くなられた方々とそのご遺族、ご自宅や職場を失われた方々など、被災されたみなさまに心よりお見舞いを申し上げます。
また、3月11日以来、過酷な状況下での救援復旧活動本当におつかれさまです。

私たちは、これまで気仙沼市内において、地元のみなさまの避難生活・生活再建をお手伝いしてきたNPOやNGO、ボランティア団体のネットワークです。
今後も唐桑、気仙沼、本吉の各地域で、地域の方々の声を聞きながら、共に悩みながら、復旧支援活動をお手伝いさせて頂く所存です。

今後の復興プランづくりにおきましては、気仙沼に1つでも多くの家族が残ри、若い世代の方々が「ここで、子育てをしたい」お年寄りの方々が「ここで、老後を過ごしたい」と思えるような「まちづくり」を目指しておられることと思います。
そのためには、市民のみなさまの各々が参加し、自らのくらし方や働き方、子育てや老後の過ごし方について考え、デザインし、創っていけるようなまちづくりの仕組みや運動が必要だと思ひます。

私たちは、地域の活性化、人々が集まる場づくり、子供が元気に遊べるまち、などで、まちづくりをお手伝いしたいと考えております。産業やインフラの復興と並行してみなさまが推進なさる、環境や教育、福祉の視点を大切にした「人のくらし」を中心に据えたまちづくり事業を、今後ともお手伝いさせて頂きたいと私たちは願っています。

賛同団体：NPO法人 森は海の恋人、社会福祉法人 気仙沼市社会福祉協議会、気仙沼ボランティアネットワーク聖教会、ジャパン・プラットフォーム（JPF）、震災がつなぐ全国ネットワーク、（特活）国際協力NGOセンター（JANIC）、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（調整中）、天理教災害救援ひのきしん隊、大阪ボランティア協会、金光教、FIWC、RQ市民災害救援センター、IVY（国際ボランティアセンター山形）気仙沼、（公社）Civic Force、公益社団法人 日本国際民間協力会（NICCO）日本国際ボランティアセンター（JVC）、とちぎボランティアネットワーク、シードアジア、（公社）日本国際民間協力会（NICCO）、（公社）シャンティ国際ボランティア会（SVA）（順不同）

2011年の会合風景



現在の会合風景



今後の課題

- 震災前から活動する団体との情報共有。
- 災害緊急支援からの緩やかな脱却。
- 恒久的な町づくり意識の醸成支援。
- 各団体の活動への相互理解。

ご清聴ありがとうございました。

気仙沼NPO/NGO連絡会